○議長（茅沼隆文）

次に、日程第6 報告第2号から日程第8 報告第4号までの専決処分の報告について（損害賠償の額を定めることについて）の計3議題は関連がありますので、開成町議会会議規則第36条の規定により、一括議題といたします。

説明を担当課長に求めます。

環境防災課長。

○環境防災課長（秋谷 勉）

それでは、報告第2号 専決処分の報告について（損害賠償の額を定めることについて）でございます。

町長の専決処分事項に関する条例（平成22年開成町条例第11号）の規定により、別紙のとおり専決処分したので、地方自治法第180条第2項の規定により報告します。

平成28年1月5日提出、開成町長、府川裕一。

1枚おめくりください。専決処分書でございます。

町長の専決処分事項に関する条例（平成22年開成町条例第11号）の規定により指定された町長の専決処分事項について、次のとおり専決処分する。

平成27年12月3日、開成町長、府川裕一。

町は、ペンキスプレー缶等のガス抜き作業中に発生した事故により物件に与えた被害の損害賠償の額を次のとおり決定する。

1、損害賠償の額、金49万201円。

2、損害賠償の相手方、神奈川県足柄上郡開成町牛島●●●番地、●●●●。と相手方の名前が入ります。

本事故の概要でございますが、平成27年10月27日午前10時15分ごろ、開成町民センター地下駐車場において、環境防災課の職員2名が、ペンキスプレー缶等のガス抜き作業を行っていたところ、誤って塗料が多量に吹き出し、付近に駐車してあった来庁者の車両に付着し、損害を与えてしまったものでございます。

次のページには、事故の発生箇所の位置図を、その次のページには被災した車両の写真を添付してございます。

続きまして、報告第3号、専決処分の報告について（損害賠償の額を定めることについて）でございます。

町長の専決処分事項に関する条例（平成22年開成町条例第11号）の規定により、別紙のとおり専決処分したので、地方自治法第180条第2項の規定により報告します。

平成28年1月5日提出。開成町長、府川裕一。

1枚おめくりください。

専決処分書。

町長の専決処分事項に関する条例（平成22年開成町条例第11号）の規定により指定された町長の専決処分事項について、次のとおり専決処分する。

平成27年12月4日、開成町長、府川裕一。

町は、ペンキスプレー缶等のガス抜き作業中に発生した事故により物件に与えた被害の損害賠償の額を次のとおり決定する。

1、損害賠償の額、金11万5,603円。

2、損害賠償の相手方、神奈川県足柄上郡開成町吉田島●●●●番地、●●●●●と、ここにも相手方の氏名が入っています。

事故の概要以下の説明については、報告第2号と同様でございますので、省略させていただきます。

3件目でございます。報告第4号 専決処分の報告について（損害賠償の額を定めることについて）でございます。

町長の専決処分事項に関する条例（平成22年開成町条例第11号）の規定により、別紙のとおり専決処分したので、地方自治法第180条第2項の規定により報告します。

平成28年1月5日提出。開成町長、府川裕一。

1枚おめくりください。専決処分書でございます。

町長の専決処分事項に関する条例（平成22年開成町条例第11号）の規定により指定された町長の専決処分事項について、次のとおり専決処分する。

平成27年12月7日、開成町長、府川裕一。

町は、ペンキスプレー缶等のガス抜き作業中に発生した事故により物件に与えた被害の損害賠償の額を次のとおり決定する。

1、損害賠償の額、金15万120円。

2、損害賠償の相手方、神奈川県南足柄市関本●●番地、●●●●●になります。

こちらも事故の概要、以下の説明については、報告第2号と同様でございますので、省略させていただきます。

以上、3件の専決処分について報告いたしました。それぞれの専決処分の日が異なっております。これは、それぞれの相手方の最終的な確認をいただいた日付をもって、専決処分日としているためでございます。

なお、本損害賠償事件につきましては、町が加入しております全国町村会総合賠償補償保険の対象である業務遂行に起因する偶然の事故について、町が法律上の損害賠償責任を負う場合に該当しております。損害賠償額につきましても、それぞれの修理会社の見積もりに基づき、全国町村会損害賠償補償保険の引き受け会社である損害保険ジャパン日本興和株式会社の確認を得ており、全額保険での対応となっておりますことを申し添えます。

説明は以上でございます。

○議長（茅沼隆文）

説明が終わりましたので、質疑に入ります。質疑は、報告第2号から第4号までの3議案を一括して行います。質疑をどうぞ。

11番、菊川議員。

○ 1 1 番（菊川敬人）

1 1 番、菊川です。まず、報告第 2 号、賠償金額が 4 9 万ということは、非常に高額になっているということも気になるのですが、今回の 3 件の報告の専決処分の内容ですが、スプレー缶のガス抜きということでありますが、スプレー缶だけではなくて、そのほかにも、危険物が入ったものを処理されることがあろうかと思えます。そういった際の事故が発生しないための手順書等を設けておられると思えます。その手順に従って作業はされたのではないかと思うのですが、事故の発生前の手順と発生後の作業手順等について、改善が何かされたのかどうか、お聞かせ願いたいと思えます。

○議長（茅沼隆文）

環境防災課長。

○環境防災課長（秋谷 勉）

手順書ということですが、はっきりとしたマニュアル等については作成しておりません。ただ、この事故を受けまして、もともと町民センターの駐車場は作業場所ではないということもありますので、その辺、作業については、しかるべき場所、具体的に言えば、金井島のストック場、作業をする場合にはこちらで行うということを徹底することとしております。

以上でございます。

○議長（茅沼隆文）

菊川議員。

○ 1 1 番（菊川敬人）

私が申します手順というのは、安全に対する手順というのがあるかと思うのです。

今回の場合はスプレー缶ということで、引火性があるわけですね。スプレーが飛散するだけではなくて、引火する可能性もあるということも念頭に置いておかなければいけない。そういった意味での手順等は当然必要ではないかと思うのですが、今後どうされるおつもりでしょうか。

○議長（茅沼隆文）

環境防災課長。

○環境防災課長（秋谷 勉）

議員のおっしゃるとおりでございまして、これは町のほうも、以前、札幌のほうで、地域のごみ集積所でスプレー缶にたまたま引火してしまったという事故があった際に、おしらせ版、広報で住民に対しても周知をしているところでございます。その辺は頭にももちろんあって、引火には気をつけてはおりましたが、もちろんこの部分については、今後、こういう町民センター等の場所では行わないことも含めまして、さらに職員に対して指導徹底してまいりたいと考えてございます。

○議長（茅沼隆文）

町民サービス部長。

○町民サービス部長（石井 護）

補足をさせていただきますが、全く議員のおっしゃるとおりでございまして、今回

の業務につきましては、基本的に不法投棄のものを職員が回収をしてきて、前処理したと。ということは、日常的にある業務ではなくて、年間、あるときはあるし、ないときはないという業務でありまして、ちょっとその辺の油断があったのかなと思います。

今後は、その辺の業務自体も職員がやるのか。あるいは、ほかのごみ処理等は全部委託でやっておりますので、そういったものに含めるのか。その辺は検討していきたいと思います。

○議長（茅沼隆文）

ほかに質疑ございませんか。

2番、山田議員。

○2番（山田貴弘）

2番、山田貴弘です。今回の専決処分に当たっては、保険処理をされるということで認識しているところなのですが、今回の損害の専決処分は、相手方の車に対しての専決の報告をされていると思うのですが、庁舎から1.6メートル下がったところで噴射されたということは、擁壁、フェンス等公共物、それにも付着されているのではないのか、その損害の部分というのは、保険の中で対象外なのか。本来であれば、保険処理するのであれば、床もしくは壁、フェンス等損害の金額を出した中で、保険請求するのが妥当ではないのかなと思うのですが、保険内容の中で、そういう公共物に対しては除外ですよという要綱があったがため、請求しなかったのか。そこら辺の根拠というものを明確にしておいていただきたいと思います。

○議長（茅沼隆文）

環境防災課長。

○環境防災課長（秋谷 勉）

保険の対象となるかについては確認しておりませんが、自前で掃除をするということで予定しておりますので、特に費用は発生しないと想定してございます。

○議長（茅沼隆文）

山田議員。

○2番（山田貴弘）

2番、山田貴弘です。要するに事件を起こした本人が職員であるから、内部で清掃をして、費用がかからないようにやるという答弁なのかなと思うのですが、保険処理をするわけですから、業者に出して、きれいに洗浄してもらうというのが道理ではないのかなと考えているところであります。なぜ、そのようなことを言うかという、被害者の車両等を見ていると、これは職員の車両が入っていますよね。誰とは言わないですが、公務の部分で、置いてある車両を保険処理するのであれば、そのぐらいのことはできるかなと仮定しましたので、そこら辺は調査した中で、今後、町民の財産でもある以上は、徹底して修繕をされたいと述べておきます。

それとあと、次の質問に入りますが、このたびの専決処分というのは、2号から4号まで別々に報告として上げられているのですが、これは2、3、4号を合算すると、

75万5,924円。今回の専決処分の根拠というのは、法律上の義務に属する損害賠償の額について、1件50万円以内のものを定めている関係上、別々にして専決処分をしたんだよという報告をされているのですが、自分の勘違いなのか、認識不足なのかわからないですけども、1件の事件、損害で、三つに分けるものなのか。一つの事故に起きた損害が、たまたまこれは別々にして、50万円以下なんですけれども、これは一括の中で上程するのが筋ではないのかなと思うのですよ。そこら辺、議会側の認識もそうなんです、町側の認識も、どういうふうに考えているのか。

あくまでも同じ一つの事件、事故で発生したものだから、まとめて損害額を出して、誰々が幾ら、誰々が幾ら、誰々が幾らという上程の仕方をするのが道理ではないのかなと自分は思っていたもので、こういうやり方をすると、逆に言えば、少額である、例えば、先ほどの報告1号は1,100円でしたか、こういうものが無数にある場合には、各1件ずつ報告として上げていかなければいけないという道理になると思うのですよ。だから、その点は今後の課題になると思うのですが、専決の仕方について、議会側とすり合わせたほうがいいのかという部分がありますので、今回の専決処分については、内容については異論、問題はないのですが、そこら辺の認識というものを、どういうふうに町側が考えているのかどうか。答弁いただきたいと思います。

○議長（茅沼隆文）

町民サービス部長。

○町民サービス部長（石井 護）

おっしゃられることはよくわかるのですが、今回の提案を改めて申し上げますと、事情に基づいて、町が条例で決定した専決処分、町長が専決処分できるものとして、損害賠償の額を決定すると。これは当然、加害者と被害者、当事者間で損害賠償は幾らになるのかということが基本ですから、議員がおっしゃるとおり、物事はスプレー缶の噴出で、相手方が3人ですけれども、当然、これはAさん、Bさん、Cさんという形で、それぞれ別件で扱うのが基本であると私どもは考えております。

○議長（茅沼隆文）

環境防災課長。

○環境防災課長（秋谷 勉）

ただいまの件でございますが、具体的に申しますと、例えば、今、3名別々にいますと。たまたま今回は、同じ時期に皆さん同意を得られておりますが、例えば、一人の方と交渉が長引くケース等も考えられます。その場合に、既に合意している方については先に専決処分をして、損害賠償額をお支払いするということとなりますので、そういうことも含めれば、部長が申し上げましたとおり、加害者、被害者という一つのペアで1件という扱いで専決処分をして、対応していく。というのが、専決処分以外でも、議案として出る場合でも、加害者、被害者1件に対して一つの案件と整理するのが合理的であると考えています。

○議長（茅沼隆文）

山田議員。

○2番（山田貴弘）

2番、山田貴弘です。このときの歳入の部分、保険会社から支払われるお金というのは、直接被害者に行くものなのか。行政側に一旦入って、そこから支出がされるのかどうか。そこら辺の流れの仕組みを1点教えていただきたいのと。

あと先ほど言った、職員がとめていて、そういう損害というのは、例えば、駐輪所なんかでも、もちろん自転車で通っている人はいると思うので、そこら辺での事件とか事故が起きたときの扱いというのは、庁内でどのような認識をされているのか。職員の所有物というのですか、そういうものの扱いの処理の仕方を、そこをお聞きしたいと思います。

○議長（茅沼隆文）

環境防災課長。

○環境防災課長（秋谷 勉）

まず、1点目の損害賠償金額の予算の処理でございますが、平成22年4月に施行されました保険法によりまして、賠償責任保険の保険金請求権は、被災者が先取特権を有するという事で定められたようでございます。ということで、つまり原則としまして、被災者が直接保険会社に対して保険金の請求権を持つことになっているということになりますので、さらに今回の場合、過失は町側が100%ということになりますので、その全額が保険金で賄われるということになります。町から直接支払う金額はありません。歳入歳出を含めて、町の予算には上がってこないということになります。直接ご本人からの請求により、保険会社から支払いが完了するという形になります。

以上でございます。

○議長（茅沼隆文）

総務課長。

○総務課長（山口哲也）

後段の職員の所有物等の事故という場合ですが、これは公務上の事故であったりですとか、職員に起因する事故であったりと、そういった場合であれば、これは町が補償するという形をとっていくものと認識しております。

○議長（茅沼隆文）

1番、佐々木議員。

○1番（佐々木 昇）

1番、佐々木昇です。今回の専決処分の内容は理解いたしましたけれども、一つ確認させていただきたいのですけれども、見積もりなんかも提示していただいたということですが、保険会社さんに任せ切りということはないと思うのですけれども、行政側として、誰がこの辺の見積もりを確認されているのか、確認させてください。

○議長（茅沼隆文）

環境防災課長。

○環境防災課長（秋谷 勉）

お答えをします。なかなか見積もり、いろいろなケースがありますので、車両の修理ということですので、職員が直接中を細かに確認するということにはできません。もちろん私を含めて対応した職員も、中身を見てはいますけれども、これがおかしいだとか、そこまでの確認はできません。

ただ、今回、先ほども菊川議員からのご指摘がありました、1件49万円の、ちょっと高額なのかなという話がありました。これにつきましては、保険会社の専門の調査員の方が、現実に修理会社まで出向いて、車を見て、その中で業者が出した見積もりと調整をして、最終的に49万円と精査した中で、49万円という金額が出ておりますので、保険会社を私どもも信頼しているということでございます。

以上でございます。

○議長（茅沼隆文）

ほかに質疑ありますか。

（「なし」という者多数）

○議長（茅沼隆文）

それでは、質疑がないようですので、報告第2号から第4号までの専決処分の報告について（損害賠償の額を定めることについて）の報告を終了いたします。

これをもちまして、本日の日程は全て終了いたしました。

本日はこれにて散会いたします。

午後2時45分 散会